

【凡例】

- 一 本目録は、館蔵の小正月に係る資料群の図版目録である。
- 一 資料は、地域ごとに掲載し、最後に参考資料として小正月に売られていた商品と、大正月の資料を掲載している。
なお、地域は概ね北から順に並べている。
- 一 特に注記がない場合、平成六年（一九九四）～八年（一九九六）に収集調査をした際に得られた情報をもとにしている。
- 一 元当館学芸員辻（山口）浩子をはじめとした調査結果をもとに、当館学芸員小森明里が編集および執筆を担当した。
- 一 本巻掲載写真の内の一部は、高久良一氏の撮影による。
- 一 資料名について、民俗語彙もしくは漢字表記が不明のものは、カタカナで表記した。また道祖神に係る名称のうち、地域における呼称はカタカナで表記し、館で資料名をつけたものは「道祖神の人形」などと表記した。

【資料群解説】

長野市立博物館の小正月コレクションは、長野市を中心とした長野県内各地の小正月に関係する資料を収集したものです。当館が、平成六年（一九九四）～八年（一九九六）に収集した資料を中心としています。この収集は、一九九四年に長野市とその周辺地域の道祖神信仰に関して調査をしたことに始まりました。この時に、各地域の道祖神の人形や、道祖神祭りに使用したものが収集されました。その後、長野県内各地の小正月に関する調査を行い、コレクションを増やしてきました。これらの調査・収集の成果は、二冊の展示図録において報告されています。その成果からは、地域の小正月の様相を知ることができます。

当館で収集が行われた当時（一九九〇年代）は、群馬、埼玉などの近県の博物館でも小正月資料の調査・収集が行われていました。その背景の一つとして、「消失の危惧」がありました。そのため、当館でも、消失が危惧された資料や、すでに作られていなかったものの再現可能だった資料が収集され、記録されました。これらの中には、現在は記録することができないものも多くあります。このコレクションは、当時しか知ることができなかった事象（行事の形態と記憶）を記録している貴重な資料群といえるでしょう。

また、当時の収集においては、モノツクリの製法や素材に着目しています。モノツクリに使った木の種類を調査し、削りものに使った刀も二点収集しています。そして、行事の内容を文字や写真によって記録しました。

以上のような資料のほかにも、当館には、開館から現在まで小正月に係る多くの資料が寄贈されてきました。それと同時に、大正月の資料もご寄贈いただきました。そのような資料も小正月行事を捉えるうえで重要な資料と考え、本目録に掲載しました。